

知的財産戦略ビジョン (サマリー)

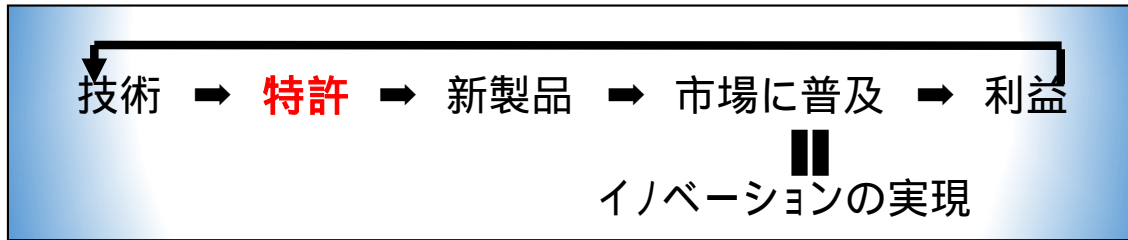
2018年9月27日

内閣府知的財産戦略推進事務局

1. ビジョンの検討 イノベーションの変質

20世紀 = D > S の時代

S リードのリニアモデル = 核となる IP を押さえて



- ➡ 市場の獲得 維持
- ➡ 利益 ➡ 技術に再投資

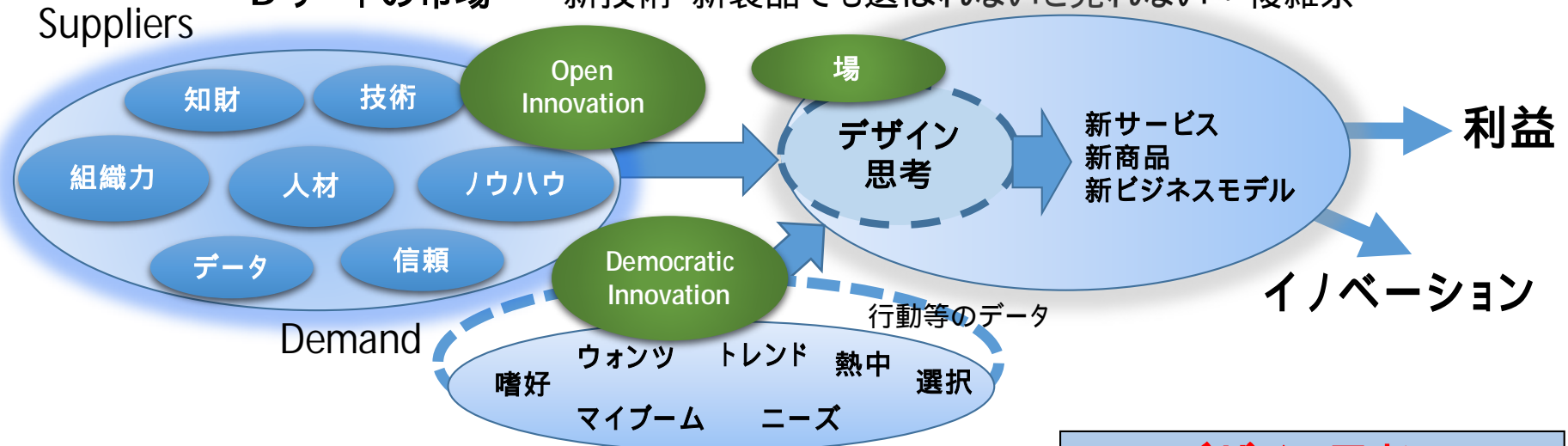
プロパテント戦略

モノ、供給サイド、技術、
パイプライン中心

21世紀 = D < S の時代

サービス、需要サイド、
デザイン、プラットフォーム中心

D リードの市場 = 新技術・新製品でも選ばれないと売れない + 複雑系



- ・ D を理解したビジネスのデザイン
- ・ 必要な資産の選択 組合せ

がイノベーションの鍵 ➡

デザイン思考 & プロイノベーション戦略

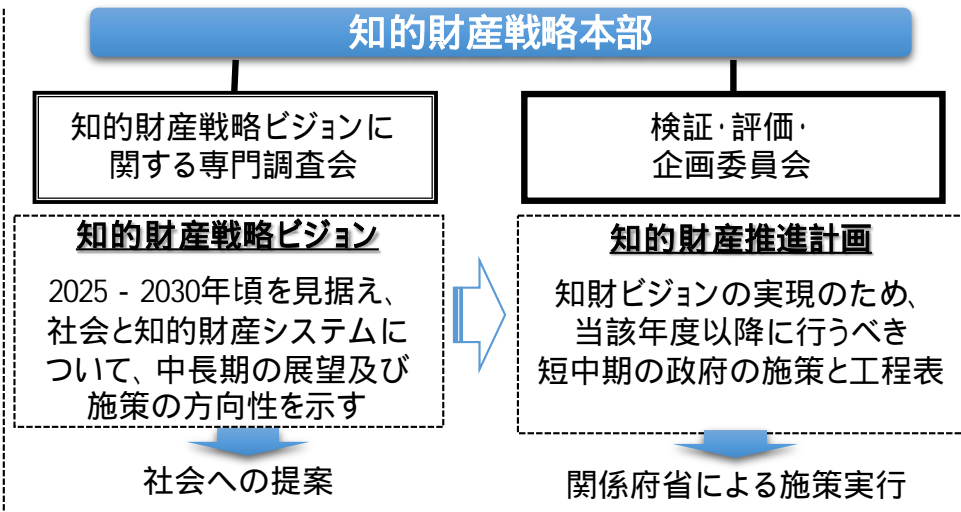
知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会について

知的財産戦略ビジョンは、2025～2030年頃を見据え、社会と価値の生みだし方、それを支える知財システムについて中長期の展望及び施策の方向性を示し、毎年の「知的財産推進計画」の大目標として策定。

ビジョンの考え方を発信・共有して実践や意識改革を促すとともに、未来についての自由で幅広い議論を続け、ビジョンの有効性を検証。

知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会 構成員 敬称略

氏名	所属
安宅 和人	ヤフー株式会社CSO
池田 祥護	学校法人新潟総合学院理事長/日本青年会議所2018年度会頭
梅澤 高明	ATカーニー 日本法人会長
落合 陽一	筑波大学学長補佐・准教授
富山 和彦	株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO
川上 量生	カドカワ(株)代表取締役社長
妹尾 堅一郎	産学連携推進機構 理事長
中村 伊知哉	慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
日覺 昭廣	東レ(株) 代表取締役社長 日本経済団体連合会知的財産委員長
林 千晶	株式会社ロフトワーク 共同創業者、代表取締役
原山 優子	前 総合科学技術・イノベーション会議 議員
渡部 俊也	東京大学政策ビジョン研究センター 教授



- 第1回専門調査会合 2017年12月26日
・未来の社会像について
- 第2回専門調査会合 2018年2月2日
・未来の社会像における「価値」とそれを実現するための「仕組み」について
- 第3回専門調査会合 2018年3月1日
・クールジャパン戦略による日本ブランドの強化について
・将来の知的資産システムの在り方について
- 第4回専門調査会合 2018年3月23日
・知的財産戦略ビジョンの実現のための全体的な枠組及び個別システムについて
- 第5回専門調査会合 2018年4月20日
・「知的財産戦略ビジョン」素案について
- 第6回専門調査会合 2018年4月25日
・「知的財産戦略ビジョン」素案及び今後の進め方について

知的財産戦略ビジョンの検討の進め方

参考

委員をグループに分け、ポストイットを利用して討議し、全体で発表・議論する
「グループディスカッション形式」を採用し、「チャタムハウスルール」()の下、活発な議論を行った
()会議における発言を引用する場合は発言者が特定されないようにするというルールを参加者間で共有し、自由闊達な議論を確保。



2. 「知的財産戦略ビジョン」の構成

現在

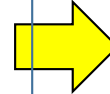
2025

ターゲット未来

2030

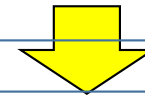
1. 将来につながる現在の環境変化や兆候

- ・供給サイド経済から需要サイド経済へ
 - ・技術進展 (IoT、ビッグデータ、人工知能など)
 - ・情報発信やモノ・コンテンツづくりの主体の広がり
 - ・シェアリングエコノミー、「コト消費」や「共感」(いいね!)
 - ・少子高齢化、人生100年時代
- ... など

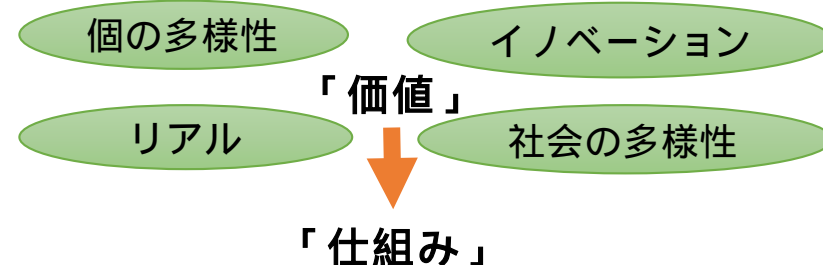


2. 予測される将来の社会像

- ・AI・デジタルの進展 「リアル」の価値向上
 - ・生き方・働き方の多様性・選択肢の拡大
 - ・会社など組織への所属の柔軟化
 - ・幸せの多様化、新しい価値感(シェア、貢献)
- ... など



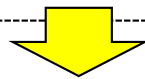
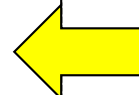
3. 将来における「価値」とそれを生む「仕組み」



- 多様な個性を生みだす仕組み
- 多様な個人が活躍する環境整備
- 知識のプラットフォーム化
- 多様な価値を内包する社会システム

4. 日本の特徴

- ・バランス感覚(例:三方よし)
 - ・先端技術の社会受容
 - ・新たなものを受け入れての編集能力
 - ・均質性(抜本的な見直しが必要)
- ... など



5. 将来の「仕組み」に向けた検討課題

目指すべき社会の姿

= 「価値デザイン社会」

専門調査会における委員意見: キーワードと今後の方向性

今後の方向性についての委員意見

1. 脱平均

- ・自分に合うコミュニティに(複数)所属できるようにし、税もそのコミュニティ内で使えるようにする
- ・異能の持ち主(いわば「狂った人」)を受け入れ、異能の求心力を持つ
- ・「常識」から外れたシナリオを沢山描く、それを奨励する
- ・尖った人のパトロン、ガイド、メンターを増やす
- ・外国人に日本を伝えるアンバサダーは、外の考えを取り込むプロモータにもなる

2. 異能が集まりアイデアが湧く「スカンク状態」

- ・独自路線の「ミニガラパゴス」になることを敢えて恐れない
- ・アイデアをどんどん生んで取捨選択。使わなかったアイデアは「肥溜め」的な場に保管していつでも使えるようにし、新しいアイデアの温床にする
- ・国全体としてミステリアスな要素を失わない
- ・訳が分からないものが沢山ある状態を保つ(それが将来価値を生む)
- ・プライバシーを重層化し(誰に対してどの程度オープンにするかを選択)、参加者限定で思い切ったことができる場を作る
- ・「知と異能の3原則プラス1」(アイデアを持つ、作る、外から持ち込む+使う)を実践
- ・排他的所有権を緩やかにし、様々な法律上の権利に共有権を設定
- ・データを吸い上げる一定の仕組み、それを利活用するパイプやアイデアをテストできる場・空間を作る

3. やってなんぼ経済

- ・個々人が多くの役割を務め、色々なことをする。
- ・アクティブ・フルムーン(人間の時間の全方位的活用。特に高齢者の時間と潜在能力を色々な形で発揮。)
- ・打率ではなく、沢山打席に立ち、ヒット&アウェイの精神でチャレンジすることを奨励
- ・トライ & エラーでよくしていく。その前提でシステム作りに修正や忘却を織り込む

今後の方向性についての委員意見

4. ドリフンの貢献のSDG 4. 信用経済、評価

- ・既存の評価関数で評価できないもの(アート)を生み出す。その価値評価関数を見出す
- ・どれだけ人のためになったかを評価のベースにする
- ・SDGsを活用した価値指標やSDGs関連のプラットフォームを作り、シーズとニーズを結びつけるプロジェクトマネージャーのデザイン力でビジネス化。プラットフォーム参加者のSDGs達成への貢献をポイント化して公表

5. 活用エコシステム 5. コンテックス創造

- ・自律分散型で、クリエイター個人が中心のコンテンツ創造 活用、二次利用、分配のプラットフォーム、エコシステムを作る
- ・ブロックチェーン技術により創作プロセスにおいて誰が何に関与したかを明確化
- ・著作物の自由な利用と創作に関与した人への分配
- ・金銭的対価のみならず「ファン」からの評価をベースにしてインセンティブを作る

6. 手入れが行き届いた「インモラル」

- ・規制など制度に適度な余白を用意する
- ・可視化されずに発展する「隠れ家イノベーション」に免罪符を与える(特区など)
- ・過度な「コンプライアンス」でがんじがらめにならない
- ・ある程度セキュア(悪いことができないギリギリの状態)なら何をやってもよいという感覚を大事にする
- ・限定的・画一的なドグマに陥らず、しかしバランスは取る、いわば集団的モラルを育成する

7. 新陳代謝

- ・スタートアップを生み出し、また新たな産業の発展を妨げる規制を撤廃して産業の新陳代謝を進める
- ・成長時代の国のあり方は維持できないので「成長的撤退」をしなければならない
- ・ほぼすべての革新は若者が実現(明治維新、戦後の急成長、シリコンバレーの新興企業)

目指すべき「ビジョン」と今後の検討方向性

「価値デザイン社会」への挑戦 ~ 夢×技術×デザイン=未来 ~

- 価値デザイン社会 -

経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得る

脱・平均とチャレンジ

尖った人、チャレンジする人や組織が我が国から生まれるとともに、世界から集まる

分散と融合

個人が有する複数の能力・アイデアを、プラットフォームを通じて他人の能力・アイデアと適切に組み合わせ、新しい価値を生む

共感・貢献経済

日本の社会、文化、方向性に共感を持つ海外の理解者、「ファン」を積極的に受け入れる

個々の主体の強化

新たな価値創造を行える人材の育成

価値メカニズムの見える化とそれを活かした組織経営

多様な価値を見える化、評価するシステムや指標作り

多様な価値を満たす事業にチャレンジするベンチャーを後押しする仕組み

組み合わせの仕組み

多様な人材・組織が集う場の形成

SDGs等実現のための知的資産プラットフォーム

次世代のコンテンツ創造・活用システムの構築

国全体のブランド化

クールジャパンの魅力分析・効果的発信

クールジャパンを支える外国人等の集積・活用

デジタルアーカイブの構築

具体的なシステムの例

